

## ロゴセラピーに出会って

深野せつ子

### 障がい者との出会い

1995年、スペシャルオリンピックス日本・宮城という、知的障害のある方々にスポーツを提供するボランティア組織が仙台にできました。その時私は、友人に誘われてその組織に参加することにしました。そこで知的障害のある方々と初めて出会い、障害のある方たちは個々に違った様々な生きづらさを持っていることを知ることができました。

スペシャルオリンピックス日本のその時の代表者であった細川佳代子さんが「障害のある方々は、障害があるということが不幸なのではなく、障害を理解されない環境にいることが不幸なのです。障害のある方々が社会の中心になった時、世界は平和になるでしょう」とおっしゃったのですが、私はこの言葉の真の意味を理解することができませんでした。その為に、その後もずっと頭の片隅に疑問として持ち続けていました。

けれどもこのスペシャルオリンピックスの活動に参加して、彼らに対してこれまで勝手に思い込んでいた私の「障害のある人」というイメージがすっかり変わりました。彼らは言葉では何も伝えてくれませんが、車椅子のアスリートが、歩きたいという意味を持ってチャレンジしていることや、指先のわずかな皮膚感覚で会話しようとしていることなどを感じ取ることはできました。また体を自由に動かすことのできるプールの水の中では、音楽に合わせて全身でダンスを楽しみ、大声で笑って喜ぶ様子などから、本人の意思や喜怒哀楽の気持ちなどもだんだんわかるようになりました。

私は広報担当でしたので、カメラやビデオを覗き込んで、レンズを通して彼らの瞬間的な表情もよく見ることができました。冬のスキーシーズンでは、バスからスキー場に降りた瞬間の、目の輝きや、これからやるスキーに喜ぶワクワク感が見えたり、誇らしげに滑っている表情なども、直接感じることができました。

この競技会のための準備合宿や全国大会の遠征などで、一緒に生活することで、彼らの日常的な障害特性を知ることもできました。また私は彼らがスポー